

Cr 16.6 ± 6.2 mg/dl, Ht $21 \pm 5.0\%$, HCO_3^- 13 ± 9.0 mEq/l であり, blood access は大腿動脈50, 外頸静脈33, 肘部の皮静脈16例他で, 生存率は1年86.5%, 5年70.0%, 社会復帰率は67.9%であった。

51. 胃癌に対する術中大動脈内制癌剤投与法の遠隔成績について

山下 泰 徳 (千大・教育学部臨床医科学)

胃癌に対する外科的化学療法術式として, 術中大動脈内制癌剤投与を考案し, 胃切除37例, 胃全摘出17例, 噴門部切除8例, 計62例に同法を施行し, 5年遠隔成績を検討した。胃切除群では術後1~2年で対照群に比して10~15%良好で, 胃全摘群では殆んど差は見られず, 又噴門部切除群では3~5年遠隔で20%の優位が見られるが longrank 法検定では5%危険率で差は認められない。各群において少くとも78例の実験例と対照例が望まれる。

52. 猪瀬型肝性脳症を主訴として発見された巨大な門脈左腎静脈シャントを有する早期胃癌の1例

木下祐宏, 服部博之 (都立荏原)

高アンモニア血症性肝性脳症を主訴として来院し, 精査の結果, 胃冠状静脈, 左腎静脈間に巨大な単一型副血行路を認め, かつ早期胃癌を発見したので, 手術的に治癒せしめ得た肝硬変の一例を報告した。

53. 穿刺吸引細胞診による乳癌の誤診例の検討

中野喜久男, 西村 明, 渡辺一男
(千葉県がんセンター)

最近の8年1月間に当センターで行った乳腺の穿刺吸引細胞診2250例のうち乳癌の偽陽性の誤診例は31例で誤診率は $\frac{31}{1886} \times 100 = 1.6\%$, 偽陰性の誤診例は12例で誤診率は $\frac{12}{364} \times 100 = 3.3\%$ であった。偽陽性の中で細胞の異型性の明らかなものは7例, 偽陰性の中で細胞の異型性の乏しいものは5例であった。これら異型性の明らかな良性細胞と, 異型性の乏しい悪性細胞とについて誤診のないよう一層の研鑽を積むことが100%の正診率に至る唯一の道である。

54. 日本の手術料とアメリカの手数料

広 田 和 俊 (広田胃腸病院)

福祉政策の表看板として, 国民皆保険による医療費の枠決めによって, 手術料は特に被害を受けて久しい。日本の手術料は, 患者さんの生命に直結する技術と経験の

無視に近い。各領域のアメリカの手術料と日本のそれとの比較で, 日本はアメリカの $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{40}$ 程度の実額となっていて, 経済価格原理から逸脱している。その原因分析にも言及した。

55. 腰痛治療の新しい考え方

高 瀬 晴 夫 (高瀬医院)

患者を腹臥位にし, 脊椎の正中線上より両側約1.5cmの所で金沢大学石川教授の皮電計が最も強く反応する個所に印をつけ, 其処より長さ約5cmの注射針を, X線テレビ透視下で其の部に最も近い椎間関節部につきあたる迄刺入し, 2%プロカイン2ml注入, 1~2分後に無水アルコール0.5mlを注入する事により, 機能的疼痛に対し, 特別な後遺症もなく従来方法より著しく良好な効果を挙げ, その90%は1回のみの注射で頑固な激痛も消滅した事を報告した。

56. Critical care における肝機能評価法

平 沢 博 之 (千大・救急部・集中治療部)

重症患者の肝機能検査法として, conventional な GOT, GPT 等では意味がない。critical care においては, 肝細胞内の energy 代謝状態を real time に反映する動脈血中ケトン体比 (arterial ketone body ratio, AKBR) にて肝細胞機能を把握するとともに, hepaplastin test にて合成能を, lipid emulsion test による phagocytic index や opsonic protein 濃度にて細網内皮系食能を把握し, 総合的に肝機能を評価すべきである。

57. 脾移植の1例

深尾 立, 尾崎 梓, 大塚雅昭, 竹島 徹,
轟 健, 石川詔雄, 折居和雄, 岡村隆夫,
岩崎洋治 (筑波大学臨床医学系外科)

慢性腎不全を合併したI型重症糖尿病患者(29歳男性)に死体脾と腎を同時に移植した。脾液は十二指腸乳頭部組織とレシピエント空腸 Roux Y 脚を吻合し腸管内に流入させた。移植直後より脾腎機能良好で術後1カ月目迄経過はきわめて良かった。35日目に十二指腸空腸吻合部縫合不全と拒絶反応が同時に起き, 開腹ドレナージ術施行, 59日目に移植脾外瘻造設術施行。80日目の現在は脾腎機能ほぼ良好で全快しつつある。

58. 北里大学におけると腎移植の現況 (X)

渡部浩二, 柏木 登 (北里大臓器移植免疫)

臓器移植における HLA-DR 抗原系の意義について